



検診を受けていなかった20歳代女性

病気は治療が遅れるほどお金と時間がかかり、心身の負担なども大きくなります。子宮頸がんが進行してから見つかった場合と、早期発見した場合ではどれくらい違うのでしょうか。

子宮がん検診を受けておらず子宮頸がんが進行

治療後も残る 後遺症、将来への不安、後悔...

仕事で忙しい毎日を送っていたMさん。まだ若いからと、子宮がん検診を受けていませんでした。不正出血がつづいたため婦人科を受診したところ、大きな病院を紹介され、検査の結果、子宮頸がん（ステージII a・進行がん）と告げられたのです。

がんが子宮頸部の周囲にも広がっていたため、手術で子宮周辺組織も切除。再発予防のための放射線治療を行いました。手術の後遺症で排尿障害や足のむくみに苦しむなか、抗がん剤治療を開始しながら、仕事にも復帰。後遺症と治療の副作用、思うように仕事ができない焦りでつらい日々がつづきました。

手術から5年。いまま通院はつづいています。ちゃんと検診を受けていれば...と悔やまれてなりません。



Mさんや同僚・家族の負担 医療費(6年間治療)355万円

	検査・診断	子宮頸がんの治療		定期検査
		手術・放射線治療	抗がん剤治療	
⌚ 時間	通院 1カ月間(5回)	入院 3カ月間 療養 6カ月間	入院・通院 5カ月間(3週間に1回)	通院 5年間 (3~6カ月に1回)
💰 お金	検査費 16万円	入院・広汎子宮全摘出術・ 放射線治療 216万円	治療費 83万円	検査費 40万円

心身の負担

Mさん

- がんになったショック・不安
- 子宮や卵巣を摘出するショックと悲しみ
- 将来への不安
- 治療(手術、放射線治療、抗がん剤治療)とそれによる副作用、後遺症の不安やつらさ
- 家族や同僚に負担をかけている自責
- 会社を休む心苦しさ、以前のように仕事ができない焦り
- 多額の医療費がかかる不安
- 今後もつづく再発・転移の不安

同僚

- Mさんが入院や療養、抗がん剤治療の通院などで会社を休むことによる仕事の負担増

家族

- 娘ががんになったショック・不安
- 子宮や卵巣を摘出するショックと悲しみ
- 治療や娘の将来への不安
- 看病
- 治療や副作用、後遺症でつらそうな姿をみること
- 今後もつづく再発・転移の不安

※掲載しているお金や時間はあくまで目安です。医療費には健康保険の給付も含まれます。

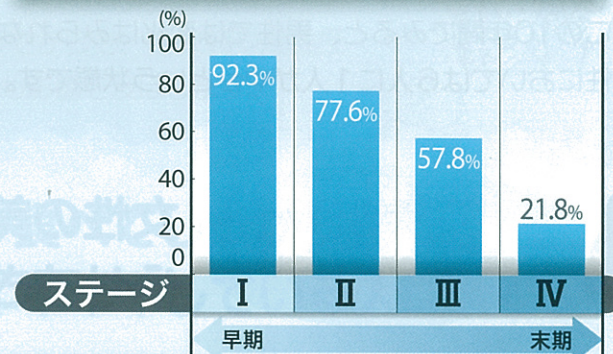
早期がんで発見していれば

子宮頸がんは早期がんならほぼ治り、子宮も残せる

子宮頸がんは、子宮の頸部(入り口)にできるがん。おもに性交渉によるヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が原因です。HPVはありふれたウイルスで、持続感染したごく一部ががんへと進行します。

子宮頸がんは早期がんでみつかればほぼ治り、子宮を残すことができます。進行がんでみつけた場合、手術や抗がん剤治療、放射線治療でがんを消失させることができれば治る可能性があります。早期がんより5年生存率が下がります。

子宮頸がんステージ別 5年相対生存率



出典：全がん協部位別臨床病期別5年相対生存率(2004-2007年診断症例)

早期がん(ステージI)で治療した場合の負担

医療費(5年間治療)82万円

	検査・診断	子宮頸がんの治療(手術)	定期検査
⌚ 時間		入院 4日間	通院 5年間 (3~6カ月に1回)
💰 お金	検査・診断にかかる負担は、進行がんと同じ	入院・子宮頸部円錐切除術 26万円	検査費 40万円

心身の負担

Mさん

- がんになったショック・不安
- 治療(手術)の不安やつらさ
- 家族や同僚に負担をかけている自責

同僚

- Mさんが入院や療養で会社を休むことによる仕事の負担がやや増加

家族

- 娘ががんになったショック・不安
- 治療の不安 ●看病

早期発見・早期治療 はメリットが多い

- 体に負担の少ない方法でがんを切除でき、入院日数も短い。
- 子宮を残すことができ、将来、妊娠・出産が可能。
- 再発・転移の可能性が低く、放射線治療や抗がん剤治療の必要がない。
- 排尿障害や足のむくみなどの後遺症に悩まされることがない。
- 仕事への復帰に時間がかからず、仕事で充実した日々を過ごすことができる。
- 治療と定期検査にかかった医療費は、進行がんの約4分の1。
- 心身の負担があるが、進行がんの場合より少ない。



早期がんでみつけるためには、20歳になったら2年に1回、子宮がん検診を受けることが大切。禁煙やバランスのよい食事、運動なども心がけましょう。